



典礼委員会担当司祭 菅原友明

今月のポイント

主よ、わたしは

あなたをお迎えするに

ふさわしい者ではありません。

おことばをいただくだけで

救われます。

拝領前の信仰告白

「百人隊長の言葉」も選択可能に

拝領前の信仰告白はこれまで「主よ、あなたは神の子キリスト、永遠のいのちの糧、あなたをおいてだれのところに行きましよう」というペトロの信仰告白(ヨハネ6・68等参照)の言葉を唱えてきました。これは日本固有の式文で、拝領前の私達の心情にも適って、親しまれてきたと思います。しかし、ラテン語規範版

では、表記の百人隊長の信仰告白(マタイ8・8参照)の言葉を唱えるようになっており、世界中の多くの言語のミサでも、こちらの式文が使われています。このことに配慮して、今回の改訂では、日本語のミサでもラテン語規範版と同じ百人隊長の言葉を唱えることができるようになりました。なお現行の日本固有のペトロの言葉も、引き続き使用することができます(※1)。

会衆がどちらの信仰告白を唱えるのかは、あらかじめ申し合わせておくことが必要になります。変更するのも大変だし、愛着があるペトロの言葉を今後も唱え続けなければよいという意見もあるかもしれません。一方で、世界の教会との一致を大切にするためにも、ラテン語規範版と同じ式文にするべきだし、百人隊長のこの言葉こそ、拝領前のかたじけない心境にぴったりだという意見もあるでしょう。また両方とも聖書に基づいた素晴らしい信仰告白なので、交代でどちらも唱えられるようにしたいという意見もあるはずです。もとより式文に選択肢があるのは典礼の豊かさに資するためですので、「混乱を避けるため」などという理由で教区として一律に指定するようなことはいたしません。各共同体で豊かな分かち合いや試行錯誤を重ねて、それぞれの状況にふさわしい運用をしていただきたく思い

ます(※2)。

この時報12月号がお手元に届く頃には、すでに新しい式次第でのミサが始まっていると思います。実に40年ぶりの改訂ですので、すっかりなじんでいた式文の変化に対する抵抗や混乱は当然あると思います。混乱や葛藤のプロセスは、共同体の成長と発展にとって大切な恵みの機会にはなりません。関係各位の長年のご尽力のおかげで、ついに新しい式文によるミサが開始されたことへの感謝と喜びは計り知れません。新しい式文を得た私たちが、キリストのとうとい犠牲を祝う感謝の祭儀を、より豊かなものとしていくことができますように、主の恵みを願いつつ連載を終了いたします。

※1 なお、会衆を信仰告白へと招く司祭の言葉は、これまで「神の小羊の食卓に招かれた者は幸い」でしたが、こちらもラテン語規範版に合わせて「世の罪を取り除く神の小羊。神の小羊の食卓に招かれた人は幸い」に変更されます。

※2 どの式文を選ぶのかというこの問題は、「信仰の神秘」という司祭の呼びかけに対する会衆の応唱についても同様です。ここでは3種類から選択することになります。内容の詳細はカトリック中央協議会「新しい『ミサの式次第と第一』第四奉献文』の変更箇所」50頁をご参照ください。